

花巻市石鳥谷地域協議会 平成 22 年度第 6 回会議 会議録

【日 時】

平成 23 年 1 月 12 日（水）午後 2 時～午後 4 時 11 分

【場 所】

石鳥谷総合支所 3 階 大会議室

【出席者】

地域協議会委員 9 名（欠席委員：長澤勝美委員、田中由一委員、伊藤賢治委員）

当局：（本庁）政策推進部企画調整課 市村課長、松田課長補佐兼企画調査係長、古川企画推進係長、菅野行政経営係長、寺林上席主任、佐々木上席主任、粒針上席主任、鎌田副主任

まちづくり部地域づくり課 木村課長補佐兼地域振興課係長

（振興センター）菅原局長代理（好地）、関局長（大瀬川）、熊谷局長（八日市）、佐々木局長代理（八幡）、伊藤局長（八重畑）、鎌田局長（新堀）

（支所）高橋地域振興課長、照井市民サービス課長、市民サービス課吉田課長補佐、地域振興課高橋課長補佐兼建設係長、小田島地域づくり係長、熊谷主査

【協議（諮問案件）】

○花巻市総合計画（見直し素案）について

・企画調整課から事前質問について回答と追加の資料の説明があった。質疑応答後企画調整課が退席し、委員により答申（案）についての協議を行った。

【説 明】

○花巻市公共交通中期実施計画（素案）について

・花巻市公共交通中期実施計画（素案）の概要及び石鳥谷地域の実施計画の変更部分について、まちづくり部地域づくり課から内容説明を受け、質疑、意見を述べた。

【その他】

・会議を傍聴した者 なし

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

※ 会議における配付資料は以下のとおり

「花巻市総合計画（見直し素案）成果指標一覧表」

「花巻市公共交通計画中期実施計画（素案）」

「花巻市公共交通計画中期実施計画（素案）前期実施計画対象表」

「石鳥谷地域予約乗合タクシー試験運行事業」

※ 顛末

○ 進行／高橋地域振興課長

1. 開 会 菅原久男副会長が開会を宣した。14：00

2. 会長挨拶

まずもって、新年明けましておめでとうございます。

12月24日に諮問されました花巻市総合計画見直し素案について色々と意見を頂いたうえに、取りまとめたいと思っておりますのでよろしく願いいたしたいと思っております。

もうひとつ、今日の中身は、総合計画見直し素案ともう一つ花巻市公共交通計画の見直し案についてということになっておりますが、この総合計画のボリュームがかなりなものになっておりますので、きちっと対応いたしますが不足のところはよろしく願いいたします。会議に入らせていただきます。

悪天候のところ、ご参会いただきまして誠にありがとうございます。

3. 協 議

菅原昭造会長

それでは、会議を進めて参ります。3の協議の内容に入るわけですが、予め質問を頂いております中身がございますので、まずその事柄をお話し合い頂きたいと思えます。藤原委員さんからでしたが、まず提案者であります藤原委員さんからご説明を頂きたいと思えます。

藤原眞紀男委員

はい。ひとつは、適正職員の人数ということで、各自治体、市におきまして面積の広い所狭い所、10万人規模ですとね。この花巻のように非常に広い所、狭い所いろいろあると思うんですけども、そういう中で職員の数は800人が大体標準だということを知ったことがあったわけです。これは振興センターか公民館の方に市長さんが回られた時にですね。これについて今回の計画では5年後、960名となっているんですけども、この数字でいいのかなということでのご説明なりお考えなりを示して頂きたいなということでもあります。

もうひとつは、この基本計画の地域資源、農業、林業、工業、商業、この辺は比較的元気のない数字になっているわけですけども、そのほかのこの安心安全、あるいは子育て教育、あるいは地域づくりという点では、5年後には結構改善された指標になっているわけです。しかし、こういう財源は減る、職員も減る。こういう中でこれを維持して、これを具現化していく場合に、従来の体制、本庁、あるいは総合支所、あるいは振興センターなど役割を大幅に見直さないと、いくら計画を立ててもそれは基本的に無理ではないかと客観的に思うわけです。その

辺のお考えがあればお話しいただきたい、この2点でございます。

菅原昭造会長

はい。コメントいただけますでしょうか。

政策推進部企画調整課古川政策推進係長

それでは最初に、10年間で職員を削減ということについてのご質問にお答え申し上げます。10万人程度の適正職員数が800人というのがどこから出てきたのかははっきり分からなかったんですが、多分、類似団体との比較で普通会計の職員数ということで出したものではないかと思えます。類似団体といのは、花巻市であれば10万人から15万人ということになりますけれども、そういった統計で同程度の人口規模で、しかも同じような産業構造の中で全国の市をグループに分けたもので、他市と比較する場合に一つの材料とするんですけれども、普通会計の職員ということで、水道とか下水道とか特別会計の職員を含まない職員を指してございます。これは、例えば同じ規模の市であっても、例えば病院を持ってるとか、市営バスの運行とか公営企業の有無等によって、職員規模、人数がかなり違ってきますので、そういった要素を取り除くために、一般会計、普通会計の職員ということで比較しやすくするためにやってるのかなというところがあります。ちょっと調査したのが21年度のものなんですけれども、その時の花巻市の職員というのが、1,092人になります。先程申し上げました普通会計の職員の数といいますと、976名ということになります。削減計画の中では、この普通会計とか特別会計っていった区分がなく、全職員を対象としているんですけれども、その取り方によってこれ120名の差が出てくるような形になります。もちろん、公営企業を除いてもですね、普通会計の職員といいましても組織のあり方とか、先程お話ししました合併の影響ですとかありまして、類似団体ということで単純に比較が出来ないんですけれども、先程のその普通会計って言った職員で、単純にこれからの削減数を引いた場合は、だいたい840人。会計ベースになりますので、840人から850人ってということになるんじゃないかと思えますけれども、その普通会計ベースで見ても、申し上げた800人というよりは、9百何人よりは若干多くなるのかなと思えます。一方ですね、国からは、この類似団体のほかに人口、市の面積、合併の有無を使って職員数を資産するという方法も示されていまして、これを使って試算すると21年度ベースでいいますと、1,053人と出てきます。先程の会計ベースで976人ということでしたから、21年で既にその試算数というのは下回っていることになります。ただ、これも合併を考慮しないということであれば、880とかなり少なくなります。880人という数字であれば目標の範囲内なのかなというところになります。職員の適正な数字、人口当たり何人ということについては、今言ったようなことを参考にして、単純に人口何人と決められるわけではないんですけれども、事務事業の改善だとか、組織のあり方などを検討して適正な規模にしていくことだと考えられると思えます。これからも、地方分権の推進だと

か、市としてやらなければならない事業が出てきますので、その辺も視野に入れて適正規模を捉えていかなければならないと思いますけれども、現在のところ市の職員の適正化計画というところでは、合併時の2割を削減して、10年間で240人2割削減するという目標を掲げているところであります。

菅原昭造会長

はい。2番目の質問についてもご答弁ください。

政策推進部企画調整課古川政策推進係長

はい。2番目のご質問につきましてのお答えをいたします。本庁、総合支所、振興センターの役割、位置付けにつきましては、現段階では変更するとか廃止するとかという考えはございません。振興センターでは地域づくりの活動支援に関すること、地域における生涯学習の推進に関すること、戸籍等各種証明の発行に関することの3点が業務内容になっていますので、引き続き担っていく考えでございます。また、総合支所につきましても、広大な花巻市の地域をカバーして行政サービスを提供するためには、なくてはならない必要な地域の拠点機関という認識を持っておりますので、これまでと同じような機能で続けていく考えでございます。職員減ということは今後も目指していくところではあります。本庁、総合支所、振興センター、それぞれ分野やエリアが違ってはいますけれども、相互に連携しながら対応して、カバーしていきたいと考えてございます。以上です。

菅原昭造会長

最初に、藤原さんのご質問の関連で、みなさんお聞きになりたいことがあれば、この機会に本庁の担当の職員の方々がお見えになっていますので、どうぞ。

川村茂委員

職員定数の話は理解できたんですが、分かりましたが、日頃からちょっと聞きたいなと思っているのは、議員定数との関係はどうなっていますか。前の議員さん達が色々議論した中で、自分達で自浄能力がない意味の言葉を含めて、定数を削減しないまま、現在の選挙になって現職になるわけですが、市民の目、一市民としては、そういったような情報提供もまたほしいものだなあと思ってるわけですから、質問します。

菅原昭造会長

議会のことは議会で決めるルールだとは思いますが、どうぞ。

政策推進部企画調整課市川課長

大迫でもその話がされまして、それで、市のホームページの中に議会のコーナーもあるんですけどもそここのところに、ご指摘のとおり現定数のままで昨年改選

されたんですが、ホームページのところに検討する課題として「議員定数と報酬のこと」というふうに書かれてありますので、特別委員会を設置して検討すべき事項として議会の方で挙げていますので、そのとおり市長部局の方からどうのこの言えないことなんですが、そのようにホームページで公表されていますので、そういう形で議論されるものと、私たちは思っております。

菅原昭造会長

それでは藤原さん、先程の答弁2つはクリアしてよろしいですか。

藤原眞紀男委員

はい。

菅原昭造会長

はい、藤原さんはよろしいようですが、他にみなさんは何かありますかでしょうか。

800人というのは大石市長があらゆる機会に発言しておったんですが、確かに一般会計ベースというのは一般の人達には馴染みがなかったものだから、800人がひとり歩きしていたという感じがしますね。お聞きしますと内容的にはある意味では整合性が分かるところです。

ではみなさん、この事柄に関係なくても結構であります。この総合計画を読んで、この機会にお聞きになりたいことがあればお願いします。

柳原さん何かありませんでしたか。

柳原榮委員

はい。私の場合は、22ページ林業の振興に関して、文言をちょっと足していただきたいという形でお話したいのですが、森林面積、市域の65.7パーセントと、次、59,652ヘクタールあるわけですが、この内市有林、要するに花巻市で持っている森林、全くみなさんご存知がないように思う、私も3町合併になったわけですからいくらになったか分からないわけですが、少なくとも市でこのぐらいの森林を持っているんですよと、括弧書きでいいので「内市有林何ヘクタール」多分1,000ヘクタール超えてるかも知れないですけど、いずれ近いと思うんで、括弧でこの市有林の面積を入れたらどうかということでもあります。

菅原昭造会長

要望ですね。

柳原榮委員

そうだね。

菅原昭造会長

「し有」の「し」はプライベートの「私」ではなく、「市」だね。

柳原榮委員

「市」花巻市の「市」です。

菅原昭造会長

そういうことなようであります。ご検討いただきたいと思います。

柳原榮委員

それとですね、中段に行きまして、森林林業に対する国民の関心度は高くなっており、特に環境保全の持つ役割、環境保全と言えば全般的になってしまうわけですが、役割の後にですね、今盛んにCO2、二酸化炭素の関係が取り沙汰されておりますので、機能というのは正に「CO2の削減」に寄与しているわけですので、ここに「CO2の削減などについて」という役割の後にそういう文言を入れたら、なお一層市民が関心を持つんじゃないかなと、これも要望としてお話ししたところです。

菅原昭造会長

このことについては、お聞きのとおりであります。その後段の段階で諮問案の取り扱いの際に、意見として入れることも含めて最終的な取りまとめとしたいと思います。今の段階では、要望ということで取り扱わせていただきたいと思えます。

あと、質問はありませんか。

特になければ、実はお手元にあります「花巻市総合計画（見直し素案）の成果指標」の一覧を説明いただいてそのあと、今日の協議会の諮問の取りまとめということで、それでいいですね。

それでは、どうぞ。

政策推進部企画調整課松田課長補佐

資料「花巻市総合計画（見直し素案）成果指標一覧表」により説明

菅原昭造会長

ありがとうございました。何か質問ございますか。

全くこの事柄と関係ないかもしれませんが、大迫、東和あたりの協議会で、特に私共が参考になるような要望なり質疑がございましたでしょうか。さっき議会のことが出たようでしたが。何か特徴的なことがございましたら紹介していただきたいですが。

政策推進部企画調整課市川課長

大迫ですと、医療の関係、医療の関係と関連しての消防救急の関係、それから県立の病院の関係があったりしてそういう分野でのご意見とか要望が多かったかなというところがあります。東和の場合は、まちづくりの関係のトータル的なこと等、特にどの分野で云々ということとはなかったかと思うんですけど、大迫は割と地域的なことはあったかと思えます。

菅原昭造会長

はい、ありがとうございました。

今は質問事項のお話し合いでございますが、あとございませんか。

特になければこの段階は閉じてよろしいですか。みなさんよろしいですか。

藤原眞紀男委員

要望になりますが、よろしいですか。

菅原昭造会長

はい。

藤原眞紀男委員

一点だけですが、今一番困るのが就職難といいますかね、勤め先がないというのは、おそらく年寄りをはじめとして若い人もやっぱり共通の問題だろうし、深刻な問題だろうと思うんです。それで、32ページの就職率。平成17年度48.1パーセント、22年度42.1パーセントこれは21年度ですけれども、平成27年度55.0パーセントとありますけれどもね。まあ、年を取った方はどんどんリタイアしていくでありますし、若い人たちは少ないでありますし、色々根拠もなく指標を作るというのは非常に難しいとは思いますが、ただせめてですね、北上市くらいの、花巻よりは上だと思うんですよ、この就職率ですね、目標値としてそういうようなものを掲げてですね、ただ、今度それを、なんでこんな目標を掲げたとか色んな問題もあろうかと思えますけれども、誘致企業にもう少し精神的に動いていただくとか、もう少しこの辺が安心の出来るような数字をですね、随分役所の人達も努力してやってくれてるなとか、この辺もう少し工夫が出来ないものかということで、今回は要望ということでお願いしておきます。

菅原昭造会長

これも大変な問題なわけではありますが、要望なようであります。

どうぞ。

鈴木俊一委員

小学校の関係なんですけども、今年度東和町さんが合併することになってるん

ですけれども、石鳥谷の場合は小学校が4つ程ありますけれども、その合併になる目安みたいなものはあるんですか。

政策推進部企画調整課松田課長補佐

旧東和町の場合はですね、合併前に統合するというのを決めていたというのがありますし、今、大迫の外川目小学校とか、来年、再来年ですか、前田小学校もありますけれども、考え方としては、子供達はある一定の規模で学ばせて、切磋琢磨させたいという考えもあって、裏返せば複式学級は解消と言いますか、やはり学年学年に応じた学ばせるべき事柄があるということで、市としては今のところは複式を解消しようということで、複式が今後もずっと続いてくというふうに見込まれる場合は、近隣の学校とどうでしょうか、ということで地域との話し合いをしていくこととしています。

菅原昭造会長

よろしいですか。

鈴木俊一委員

はい。今、私、新堀小学校なんですけれども、新堀小学校の児童数も120名程、あと八重畑さんが80名くらいですかね。そして昔から噂として、河東の小学校さんが二つ一緒になるような話を聞くんですけど、こちらの方も大瀬川さんとか八日市さんが既に合併してるんですけど、どんなものなのかなということを知りたいというか目安というものがあればお聞きしたいなということでした。

政策推進部企画調整課松田課長補佐

今のところは、出てないと思うんですけど笹間第二とかですね、複式の話をする内川目の2学年くらいが複式になってるとは思うんですけども。

菅原昭造会長

まあ、暫くは大丈夫だ。暫くは。

鈴木俊一委員

分かりました。

政策推進部企画調整課市川課長

東和の場合は、新しい校舎が、土沢と成島はまあ新しい校舎なんですけれども、他は同じ頃に建てていて、古くなって改築が連続するというのが多分旧町時代の課題としてあったんじゃないかと思うんです。だから、それで合併前に東和町時代に学校を一つに統合すると進んできて、それを支持して引き継いで今校舎が建っているということがあったと思いますし、こちらの方で基準をはめて統合

を進めるということはないということです。

菅原昭造会長

いずれ、ざっくばらんな話をしますと、石鳥谷は全部小学校、学校改築しましたが、東和は全然小学校は手を付けなかったんですよ。だから、端的に言えばこのチャンスに統合してこの機会に新しくして、と聞いておりました。

どうぞ。

川村茂委員

数値とはまた違う話で、計画策定にあたっての考え方について教えてほしいという気持ちでお話します。総体的にこうして目を通しますと一番落ち込んでいるのは農業なわけですし、みなさんご承知なとおりでなわけではありますが、分かりやすい話、昨年度の米60キロあたり1万円だったわけですが、その価格というのは、昭和48年の時代、今から35年くらい前の値段に戻っているわけですね。米価は政府保証価格で60年代の1万9千円くらいになったために、地域経済がものすごく豊かになったという暮らしを経験して、現実を見ているわけです。そうした時に、いわゆるその5カ年計画なりローリング方式なりということであるけれども、数値は別として、具体的方向、方策っていうかその目標とするところの目玉らしきものはあまり見当たらない。しかしながら、日本の農政は前も話が出たように国際競争も更に低下していく。こうした中で希望というものが失われている農業は、その中にどのような惹起を加えて、地域経済に波及していくかというその数値というか文言というか、そういったようなものが新しいものが見えないというのが私の感想でした。例えば、今の状況で、産直でもいいしグリーンツーリズムでもいいんですが、先程以来、各委員さんからもお話が出ているように、より分かりやすい表現を加えてもらわないと、このまま後ずさりしてしぼんでしまう地域経済なのかなという印象しかなかったものですから、もう少しそういったような表現で分かりやすくしてほしいなと感じました。以上です。

菅原昭造会長

はい、要望なようであります。お聞きのとおりであります。

それでは、協議会としての取りまとめは後段でということ、ほか、質問はありませんか。どうぞ。

熊谷幸雄委員

75ページですか、3-6 競技・生涯スポーツということで見直し案について、76ページの上ですけども、成果の指標で日頃からスポーツに取り組んでいる市民の割合で、43.4、45、52目標値というような形で掲げて“こうしたい”“といったことなんでしょうけども、今までやってきた特に現状等から言って、それに向かってやっていることで、果たしてここに掲げた目標まで数字が伸びるものなんで

しょうか、ということなんです。これ以外にもう少し表現として何か具体的に書かなければ伸びないのではないかと。私も体育指導委員をやっていたんですけども、今の体制ではとてもここまで伸びないんじゃないかなと思うんです。栄光賞とかそういう表彰とは、やってる人がもらうのであって、もとが増えていってるからもらうのじゃないし、そういった形で、何か別の方策か何か書かなければ、ここの目標にならないのじゃないかなと思うのと、早起きマラソンというのは結局は旧花巻市がやってきたことで、これは他の地区ではやってないわけです。だからここの計画自体が、花巻で作ったなど、他の地区にそぐわない。沿うものも書いてもらわないと、出来ることを増やすとか、今、やる人数が減少してきていることに対して、増やしたから人数が増えるとかじゃなくて、やはり、他の旧3町が花巻と同じように今までやってきたスポーツに対しての、スポーツ教室とかの企画とかが消されましたという言い方はおかしいんですけど、そういう（旧3町の取組みを）スポーツに対して何も見ない。そういう、そっちだけでやるということでは、他のスポーツのところは完全に増えないんじゃないかと、逆にしぼむだけじゃないかと、そういう気がします。

今見ていて、数字が成果一覧が50パーセントになってて、計画は52パーセントになっててどっちが本当かなと。2パーセント違ってますね、27年度が。後から配った資料が違ってますね。それで変更なし。

そういったことで、生涯スポーツ推進員も置きますとあって、置きました、現に。石鳥谷でも協議会作りました。ただ活動する金がありません。推進員に配ったお金を出し合って運営させてるっていう実態では、推進員の人達が何か、市の大会に向けて石鳥谷でも予選みたいな石鳥谷の大会を1月に開きますけども、その運営費は推進員がもらった報酬と微々たる予算でやってるようですけども、そういった形じゃなくて、石鳥谷からすれば昔みたいに軽スポーツなりの大会がやれるような形があるからこそ、人口が増えるのかな、そういう大会がほしいなあというのがあるんですけど。なんか、旧3つ（3町）の部分が抜けてるような気がするんですけどいかがでしょうか。

菅原昭造会長

担当課の方がおいででない、あるいは分からない面もあろうかと思いますが、熊谷委員の発言につきましては、後の段階で逐条の時もう一回諮りますが、何かこの段階でおわかりのことがあれば。

政策推進部企画調整課松田課長補佐

数字につきましてはですね、確かにご指摘のとおりずれておりましたので、確認させていただきます。申し訳ございません。

菅原昭造会長

そこは、いいね。

熊谷幸雄委員

はい。

企画調整課市川課長

細かい中身は私達は分からないので、まちづくり部の方に伝えますので。

菅原昭造会長

あと、ございますか、質問はよろしゅうございますか。それでは、質問事項につきしてはここで打ち切らせていただきまして、若干だけ休憩をさせていただきたいと思います。よろしいですね。

本庁の方は用務があるようでございますので、後は、素案についての審議となります。ありがとうございました。

< 暫時休憩 >

菅原昭造会長

会議を再開します。

今日は、総合計画の見直し素案について、12月24日に一応の説明をいただいて、しかも、関心のあることについては、予め質問ということで出していただいたわけですが、お互いにお持ち帰りになりましたものを読んできたかとは思いますが、それを、大きな時間はありませんが、順序立てて一つご検討いただきたいと思います。

まず最初に、今回の見直しの際に説明を受けた最初の事柄の概要というのがあったんですが、それに従って私も読んでみましたが、基本構想の第1章序論あるいはその次の環境の変化、まちづくりの課題等にきましては、ここは見直しになってませんので、このままということになろうかと思えます。ここで特に説明を受けたのは9ページ、今まで6つに区分しておりました政策を5つに集約したということで、1から5まで書いてあります。その中のまず最初のところからご検討いただきたいと思います。政策に5つの分野の中身であります、11ページから一つご検討いただきたいと思います。定住人口、ここが見直しになっています。次、主要指標の見直しがありますが、11ページから17ページの間でお気づきの点があれば、この際ご発言を頂きたいと思えます。定住人口につきましては、最初の計画では102,000人であったものが、99,800人に人口減を想定しての見直しになっていますし、例えばですよ、12ページの世帯数につきましては、みなさん原本持っていないと思えますが、最初の計画では36,820世帯というふうに平成27年度を想定しておったものが、36,420というふうに世帯も減少するという見直し案

であります。いずれ、そういうことで、前と比較しないとよく分からない面もあるかと思いますが、すべてそういう根拠で見直しされておりますので、前お聞きになったことで気づいた点、あるいはご意見ありましたら、この際、ここでご発言いただきたいと思っております。

11ページから17ページの間で何かみなさんご意見ありませんか。特にないですか。

藤原眞紀男委員

例えば、岩手県に人口ですと、この前、正月あたり言ってるのを聞きましたけれども、140万の人口が去年5万人減ったんですか。135万人か。ポンと減ってきてるわけですよ。そうすると、平成22年が102,000で平成27年が99,800ということは3千人くらい、ほぼ横ばいと言えば横ばいというような感じなんですよけれども、この辺は、やはり増える人口、自然に亡くなる人口とかその辺は色々突き合わせしてこんなふうに出たんでしょうかね。

菅原昭造会長

平成22年は、実は最初の計画では、10万4千人だったんですよ。それを見直してここには102,993人、約10万3千人、約千人減ってるんです。そして、平成27年は、102,000人と最初計画ではなっていたものを、2千人減らして99,800人そういうことだね。

高橋地域振興課長

人口の推計をする場合いろんな手法があるようです。それぞれの個々の名称は記憶していないんですが、いろんなやり方が数種類あっていろんな形でやってみても減る方向にいくということで、今回の基本計画の見直しということになっていると思っております。

菅原昭造会長

何と言っても、生まれないものね。

高橋地域振興課長

現実的に亡くなる方の方が多いです。

菅原昭造会長

全く、一般の方に説明する場合は、今までは合併当初平成27年までは10万人を超えますよ、ということだったんです。それが、この計画では10万人を切ってしまうという見直しであります。そして、人口の減がすべての施策の根拠になっております。そこで、そのデータとともにこの前は説明を受けたと思っております。

11ページから17ページまでのところ特になければ、次に進みましょう。大冊な

もんですから。

その次は、施策の1 農業振興で6つ入っていますね。19ページから21ページ。色々書いてありますが、見直しされているのは、アンダーラインを引いているところが文言を変えた中味なようであります。農業問題、先程川村委員から発言がありました。

川村茂委員

先程話をしましたんですが、こういうふうな文言なり表現というのはいいんですけれども具体的に実際のところ分からないんですよ。いわゆるその人口推計と違って農業生産だから、政治が絡んでるから5年の間に半減する場合もあるし、見通しのつかない部分が大きいんです。私を感じたのは、さっきお話したように、今農業を取り巻く情勢の中で花巻市は産直だとかグリーンツーリズムだとかいってるけれども、それは直接農家が収入が増加する手段手法であるかといった時に、今の産直ってというのはどちらかというところほとんどの産直ってというのは自主的販売組織であって、適正規模も何も特別な制約があったわけでもなく、ただ単に雨後の筍のように発生したというのであって、むしろ地域の特徴あるいは生産として産直のような直売形式の指導をすれば、産直経営の指導なり、産直販売品目の生産指導をやってるかというところ、みんな農家独自で工夫してやってるような状況だと思います。そういったようなきめ細かい指導あるいは指標というものがここに埋もれてきてほしいなと私は思ったんですが。

菅原昭造会長

今ここに書かれているのは基本計画ということで、実施計画が入っておりません。別に出てくる予定なので全くばふっとしか書かれてありませんが、こういう意見があったということは記録させていただきます。農業の基本計画の中でそこに書いてありますのは、目標としては所得向上、当たり前のことです。そのための手立てはそこに細かいことは書かれてありませんので川村さんのような懸念を持つ方は多いと思いますね、基本計画ですから。

農業問題で、後は、基本計画ですからこういう形のものだというふうになっておりますが、よろしいですか。

その次、林業。先程柳原委員さんからご発言のあった事柄につきましては、記録として残して挙げたいと思いますが、本庁の方々もメモしておったようでありますので多分そうなるかと思うんですが、実は、行ったり来たりしますが、私共でこの審議を踏まえて、市長に対して答申書を出すわけですが、この後に総合計画審議会という全市組織があります。17日に開催されます。その他にパブリックコメントを19日まで公募しておりますので、そこからいろいろな意見が出てくるということでありまして、それらをまとめて最終的には総合計画の見直し案が一つの案として固まって、結果的には議会に提案して承認を頂くというふうな手順なようであります。今いろんな意見が出ておりますものは、二つ三つ重ねて

ですね、最終案という形になっていくだろうと思っております。どのような意見でも結構でありますので、ご発言を頂きたいと思えます。

22ページと23ページの林業の問題、基本計画、林業の振興問題では、柳原さんあと付け加えることはありませんか。

柳原榮委員

特にないです。

菅原昭造会長

その次行きます。24ページから26ページ、工業。工業に関わりのある方いないようですが、工業振興の事柄の内容が書かれております。

川村茂委員

これを読んで私なりに考えたのは、地元採用なり、花巻市の場合どの程度の状況なのか分かりますか。というのは、一つは、工業とか産業を考える場合、花巻を考えると高速交通網が整備されている地域だと思うんですが、その波及効果というのはどこに現れているのか、あるいは、あるのかないのか、一般には理解できない。それらの数値なり情勢なりというのがあるとすれば聞きたいなと思っているところです。

菅原昭造会長

ありますか。何か今の事柄についての。

高橋地域振興課長

資料はちょっと持ち合わせておりません。

菅原昭造会長

的外れになりますが、総合計画審議会はメンバーの関係があるんでしょうが、工業、商業、観光の部分ばかりなんです。大体メンバーが、オール花巻のトップなものですから。農協の組合長も入っていますが組合長ほとんど出てきませんし、そうしますとね、工業、観光が一番多いですかね。同じような質問、課題がいっぱいあるんです。いずれ資料を検討してみてください。

高橋地域振興課長

今、確認します。

藤原眞紀男委員

それにしてもですね。製造出荷額、17年1,630億、22年度の計画が2,350億だけれども、実際には1,572億円しかいかなかったと、よって、27年は1,700億円

程度しか見込みないと、こういうような数字になっているわけですが、ここの当初踏んだ2,350億円と1,572億円には800億の差があるわけです。この差というのは、何だったのかというのをよく見ておかないとね、これ同じことになりますよ、また、よくチェックして分析しておかないと、この差は何だったのかと。

菅原昭造会長

松下ではないですか。コカ・コーラとか花巻から移転した企業もありましたが、いずれ、確認してください。

高橋地域振興課長

はい。確認します。

川村茂委員

日頃気にしていることで、分からないから聞きますが。例えば、大手の小売店が郊外にたくさん来ていますが、ここの花巻市の数値に上がるのかそれとも、本社にいったまどめて上がるのか。商業について。現地にみんなおりののか。

菅原昭造会長

我々はわからないね。

川村茂委員

私なりに感じるのは、各商店街の空洞化の原因はそこにあるわけで、お金が地元で回っていないという実態と、それから地元の人達はお金を外へ流しているという現実であって、その中で“祭りをしたい”、“何したい”と言ったって補助金頼みであって、実質効果ってというのはどこに期待しているのかというのが疑問になってきている状態です。それは、商業ばかりではなくて農業の現実もそうなんです。農協が合併したことによって、地域の活性化が薄れて金が地域に留まらなくなって、高齢化の中で余計な金を使うような状態、生産効率が落ちてしまって、生活レベルが落ちるとかいうような今の状況なわけですので。

菅原昭造会長

そうですね。今の、工業のところについての基本計画の中身なんですけど、あとお気づきの点はございますか。一応、なぞっていきます。

1-4 商業、いまの話商業に行きますが、27ページ、28ページ。マルカンのデパ地下やめるようですね。いずれ、買い物難民が出るようです。上町では。こういう基本計画による商業振興の施策は大事なんですけど、現実はどここのメインストリートは閑古鳥が鳴いている、花巻も石鳥谷も。それはそれとして、商業の中身の基本計画の中身であります。

藤原眞紀男委員

どこも厳しいからね。ネットで買うのが増えているから。

菅原昭造会長

そうですね。ここは特に見直しというところはありませんので、次に進みます。

観光、29ページから30ページ。これも観光分野なんですが、アンダーラインを引いているところが見直しになっているところでもあります。観光客の入り込みを280万人に減らすという計画です。現計画がここにありませんので分かりませんが、落ち込んでいるようですので総合計画の策定時に比べて、29ページから31ページよろしいですか。

(頷く者あり)

その次は雇用、先程来、お話がありました雇用問題に関する基本計画になります。32ページから33ページ。基本計画としては見直し文言はないですね。

(頷く者あり)

その次、34ページからは政策の2番目の大項目で健康・快適な暮らしの基本計画です。35、36ページは地域医療の充実。石鳥谷は開業医もたくさんいますが、大迫は開業医が一人もいないそうです。石鳥谷の場合は医療については十分施設もありますね。2番目健康づくり、37ページから39ページ、アンダーラインを引いているところが見直しの部分であります。よろしいですか。

それでは、次に行きます。40ページ、高齢・障がい者福祉についての基本計画というようなわけですが、はい、どうぞ。

柳原榮委員

私は、文言はこれで十分いいと思うんですが、要望になると思うんですが、どうしても施設入所したくても入れない方は、在宅で介護しなければならないという実態あるわけですが、在宅、在宅という表現、あるいは在宅支援、支援っていう表現があるんですが、この在宅で、老・老介護している、そういういう者に対しての支援を本腰で本当にやってくれるのかどうか、ということはこの文章を見ながら心配したんですが、その辺を。年寄り同士で介護しあっている家庭というのは、入れたくても入れられない。財政的な負担も考えてという、そういう家庭が結構ある。これから、多分もっと増えるような気がします。是非そこは注目してやってもらいたいですね。市としてもそういうのを見逃さないで、支援体制を整えてほしいという私からの要望です。

菅原昭造会長

記録をお願いします。

確かに、介護保険事業、財政的な面もあるんでしょうけども、何年までどこがピークになるかよく分かりませんが、現場はいずれ大変です。在宅が一番の理想でしょうが、今柳原委員さんがおっしゃったとおりなんですよね。そうかと言って施設入所、平成23年度にはご承知のとおり、かなり増床になりますんで、多少は緩和されると思いますが、今は、例えばいしどりや荘の場合、約130人の待機者になりますし、隣の大迫の桐の里は145人の待機者がおります。重複して申し込んでいるので実数ではありませんが、なかなか狭き門であります。せっかく入所の順番が回ってきても、今度は経済的な問題でなかなか入りたくても入れない場合があるようですね。決して内部的には入れたくないわけではないけれども、政治の立場では全然負担できない人を入れるわけにはいかないし、その辺が大変つらいところでありまして。そういうことを柳原さんがおっしゃったと理解しております。支援体制いかにあるべきか、一つよろしく願いいたします。

40ページから42ページ、高齢・障がい者福祉のところあとございませんか。

それでは、次に行きます。消防・救急体制、43から44、お気づきの点ありませんでしたでしょうか。はい、その次に行きます。

防災体制・減災対策、45から46。

八重畑は自主防災組織が全部出来たんですか。

川村茂委員

全部出来ました。

菅原昭造会長

八幡はどうですか。

柳原榮委員

八幡は、江曾だけです。ごめんなさい。2カ所あるそうです。

菅原昭造会長

はい。ここは自主防災組織の支援事業が内容の主なものになりますが、前からかなり力を入れておりますが、この基本計画でも自主防災組織の支援事業等がメインの計画になっておりますが、自主防災組織は八重畑地域は全集落に整備されたと、八幡は2カ所、あとはどこですか。

藤原眞紀男委員

新堀が全地区終わって、今訓練をやっていますね。

鎌田新堀振興センター局長

全地区に防災会議が出来まして、その会議を予定しています。

菅原昭造会長

好地はどうですか。

菅原好地振興センター局長代理

まだですね。

菅原昭造会長

人口が一番多い好地が未だのようですが、他の地区はかなり進んでいるようですので、基本計画そのものの趣旨には沿った形で進んでいるというふうにご理解いただきたいと思います。あと、よろしいですか。

(頷く者あり)

その次6番目は生活安全。47から48ですが、交通事故、防犯の基本計画であります。

川村茂委員

前にも話したと思うんですが、防犯の関係ですが、私の住む猪鼻地域は空き家が増えていまして、その対策をどうするかということで、地域懇談会をやったんです。そうした中で、この家はだれの所有で何か起きた時、どこへ連絡すればいいかをみんなで話しました。だって分からないもの。やっぱりみんな、地域の人達は見守っているんですよ。あそこで何かあった時はこうだな、と見ているんだけど、連絡先も所有者も分からないところがありました。そういう例が増えていくと、何が起こるか分からないので不安なんです。だから、情報の公開はダメだって言われるけれども、地域の中では情報を公開してもらわないと、安心出来ない部分がいっぱいあるというのが現実です。

菅原昭造会長

振興センターでは何か奨励していますか。していない。

とにかく、跡継ぎがいなくなれば、みんな空家になるんだものね。

川村茂委員

その家は、壊さないですよ。今は。

菅原昭造会長

金かけて壊すよりもそのままなんだね。

川村茂委員

中はカビだらけになって、住めなくなっていて目茶苦茶になる。

菅原昭造会長

防犯の関わりで空家の実態把握は、それぞれの自治組織もあるでしょうが、掌握して行政と連絡取る必要があると思いますね。この計画の中ではそこまでは触れてませんが。実施計画では、このことも触れてほしいなと思います。どこの部落にも空き家はあると思います。生活安全につきましては、文言ではあまり細かく触れてませんのでよろしいですね。

(頷く者あり)

環境保全、49から51ですが。指標の中には、太陽光発電設備設置世帯数を1,000戸にするとありますが。

川村茂委員

私は、環境保全は、太陽光や温室ガスよりももっと大事なのは、地域の清掃とか、河川敷の管理だとか、それから道路の草刈りだとか、地元で出来ることは地元でやるという運動を広めていかないと、ごみの山になってしまうと思います。

菅原昭造会長

はい、他ありませんか。いろいろ自由に発言いただきましたものを整理いたしまして、見直し素案についての答申をする際には、参考資料として付けさせていただきます。今まではそうしていました。49ページから51ページのところ、あとお気づきの点ありませんか。その次に参ります。

(頷く者あり)

8番、都市環境。52ページから54ページのところ基本計画であります。ございますか。こういう基本計画であります。

(頷く者あり)

次、道路・交通であります。これは基本計画ですから、市道、道路整備等は実施計画にならないと出て参りません。お気づきの点がございませぬか。その次参ります。

(頷く者あり)

58ページ、住環境。雇用促進住宅の活用とありますが、関係はありますか。58ページ、59ページよろしいですか。

藤原眞紀男委員

雇用促進住宅自体の需要というのはどうなんですかね。

熊谷幸雄委員

国の施策として、退去期限が伸びたと言っている人がいました。

菅原昭造会長

これは、現状と今後の事柄を書いておりますが、市営住宅整備事業とか、火葬場のことが書いてありますが、火葬場はなくならないですね。

照井市民サービス課長

小破修理を続けながら、なんとか長持ちさせるようにしております。22年度は、告别室の床の修理をしましたし、天井も直しましたのでちょっと明るくなったと思います。あと、炉の方も少し手をかけております。

藤原眞紀男委員

あと何年くらい持ちそうですか。

照井市民サービス課長

それは、最近石鳥谷以外の方の利用が多くなりました。湯本、大迫もあります。年末年始は、石鳥谷の人ではなく花巻の人でした。こういう状況ですので、なんとか長持ちさせたいなと思っております。

菅原昭造会長

ここに、現状を維持していきます、と書いてあるから何ともならないと思いますが、現状はそのようであります。その次いきます。

(頷く者あり)

水資源、60から61ページ。水道の整備率、利用状況。

川村茂委員

八重畑の場合は、防災と関連して、湧水の確保を、各集落で水質検査を全部やって災害に備えたという経過があります。

柳原榮委員

私も、災害時に水道が止まってしまった場合の水の供給は、やっぱり考えておかなければならないと思っています。八重畑さんでは、今のお話のとおり確立されているようですが、私達（江曾集落）も自主防災では、昔みんな井戸があったわけですから。現在も使われているんですけども、検査するには膨大な予算が必要だということでそこまで手がつかないんで、やはり市としても、そういう観点から地域に水の確保が必要ではないかということで提案したいです。

菅原昭造会長

これも記録をお願いします。

八重畑は随分あるんじゃないですか。

川村茂委員

余る程ありますが、八重畑は川に囲まれているから、橋が落ちればどうにもならないです。水道もなんでも。ただ、水質のいい所は山ですから、山から湧いてくるのが水質がいいです。川のそばというか里の方は生活雑排水が混入しているところが2、3カ所ありまして、それは排除したという状況です。

菅原昭造会長

はい。次にいきます。汚水処理施設の整備、62ページ。27年度で水洗化率89.6パーセント、これを目指すという内容であります。これは、順調に行っているんでしょう。旧町時代から一生懸命取り組んでいることですから。その次に参ります。

（頷く者あり）

政策の3、子育て支援、64ページ、65ページ。児童保育事業。

川村茂委員

一番の原因は、やっぱり安定した収入を得られる職業に就いているかいないかの違いで、18,000円貰ったって何ともならない。むしろそっちの方だと思うな、子育て支援は。

菅原昭造会長

子育て支援は、そういうことで頑張るといようなことなようですので、文言としてはこれでよろしいですね。その次に参ります。

（頷く者あり）

就学前教育、66、67ページ。家庭教育力に向上、等、文言の訂正はあるようで

すが、よろしいですか。

(頷く者あり)

学校教育、先程学校統合の話がありましたが、ここに課題がでているようであります。よろしゅうございますか、次に移ります。

(頷く者あり)

生涯学習のことかな、まなびの機会創出。71ページから73ページであります。よろしゅうございますね。

(頷く者あり)

その次、国際、国内交流の基本計画であります。よろしゅうござますね。次行きます。

競技・生涯スポーツの推進。ここですね、熊谷さんが発言したのは。75ページ、76ページ。この成果指標については、調べてみるというさっきの回答でした。いかがですか。他に気づいた点あればご発言をお願いします。インターハイがありますね。今年の夏ですか。

高橋地域振興課長

岩手国体は、平成28年です。

菅原昭造会長

今年は、インターハイがあるようですので、この分野の刺激にはなるようです。

次、芸術文化。この前の審議会でも芸術文化について、発言された方がありました。それぞれの分野でそれぞれのやりたいことが具体的に提案出れないと意見があるようです。石鳥谷の場合はどうですか。ここの分野は。よろしゅうございますか。

(頷く者あり)

それでは、文化財の保護。大迫で事業してますね。民俗芸能もそうだし。石鳥谷の場合は、いろいろな郷土芸能の伝承をやっていますが、そのことも書かれていますね。よろしゅうございますか。次に行きます。

(頷く者あり)

地域づくり。これは政策の4になりますが、地域づくり活動の推進で82ページから84ページであります。よろしゅうございますか。

(頷く者あり)

その次は、行政経営の市民サービスの向上で86ページから87ページであります。よろしゅうございますか。

(頷く者あり)

次、広聴広報、88ページから89ページ。コミュニティFMは聞きましたか。えふえむOne。防災との関連もあって期待はされているようですね。関心をお互いに高める必要はあるかなと思います。それは、88ページから89ページに広聴広報のところに記載がありましてアンダーラインが引いてあります。特になければ、次、意識改革のところ90から91。よろしいですか。

(頷く者あり)

そして、92ページから94ページが行財政計画の推進。文言で書けばこういうことになるのではないのでしょうか。先程の藤原委員さんの発言の定員管理もここに書かれてあります。

以上が、政策を5つに絞った中味になります。

(頷く者あり)

続いて、95ページからまちづくりの戦略的構想。これは追加提案です。今の総合計画には入っていない、追加で今回新たに出てきたものなようです。ひとつは、観光立市イーハトーブはなまき構想、二つ目が、花巻市医療圏構想、三つ目が、こどもの城構想、四つ目が、花巻市まなびキャンパス構想、五つ目が、スポーツでまちづくり構想。この五つであります。このことについてもご意見を頂きたいと思います。

こどもの城構想について、誰か知ってる方ありますか。先日市長は政治生命をかけてやると言っていました、どこに作るか分かりませんが。最初の計画は、花巻空港の建物を利用する考えだったようですが、計画がなくなりまして、今はどこかわかりませんが。とにかく市長は、こどもの城構想を最優先課題でやると言っておりました。

(頷く者あり)

それでは、総合的に後はフリートーキングで参ります。一通りなぞって参りましたが、見直しの文言が入ったところをいちいちチェックはいたしません、みなさんの方で全くのフリーの立場でご発言をこの機会にお願いしたいと思います。

総合計画の見直し素案につきまして、実は、冒頭で申し上げましたように、今日の審議でまとめたいと思います。何回集まってもいいんですけども、お互いに2月3月は忙しい時期なものですから、この機会にみなさんの意見をまとめて、後、答申の中身については、ご異存がなければ、会長に一任を頂きたいと思いません。そういう進め方よろしいでしょうか。お諮りいたします。

「意義なし」の声あり。

それでは、もう少し議論をして参ります。それでは、全般的に総合計画の素案について、あるいは、懸念なり、要望なり、意見があれば、最終的に付帯意見にしたいと思います。菅原委員さん、何かありませんか。

菅原久男委員

少子高齢化という問題で、子供が少なくて高齢者が増えるというのは、現実の問題になってきているんですけども、高齢者を考えた場合、寝たきりの方も高齢者の中に入っていて福祉のことが話されているんですが、一方で、高齢者といわれる方々に元気な高齢者の方もいるんですね。シルバー人材センターというのがある、高齢者の能力なり、時間の活用をする場が増えているとは思いますが、これも、高齢者に対する支援とか介護ともありますが、生きがいと対策としても、高齢者の方々が元気に収入を得ながらものを生産しながら生活していけるような支援も必要なんじゃないかなと感じていました。そういう意見でした。

菅原昭造会長

淵澤委員さんいかがですか。

淵澤節子委員

特にありません。

菅原昭造会長

柳原委員さん、いかがですか。

柳原榮委員

17ページに、計画進行管理と謳ってありますので、これを是非正確なものにして、市民に公表していただきたいなと思います。要望です。このとおりでいいと思いますので。是非公表していただきたい。

菅原昭造会長

鈴木委員さん、いかがですか。

鈴木俊一委員

特にないですけど、自分の子供が今高校生になっているんですけど、そろそろ働くことになるので、花巻市の人は花巻市内に就職をとすることはできないのかなど、ちょっと無理ですかね。

菅原昭造会長

全くその通りだと思いますけどね。私は、いしどりや荘の理事長もしていますけれども、出来るだけそうしたいと思っても出来ないことがあるんですよ。資格の問題。つまり特別養護老人ホームの場合は、最低でもある程度の資格を取らないと、実は今 120 人近い職員はいるわけですが、ほとんど何らかの資格を持っています。無資格の人の希望はいっぱいあるわけなんですけど、そこがネックですね。現職に就いてから研修して資格を取る場合も勿論あるわけなんですけど、例外ですね。今回、障がい者も 2 名採用しました。障害者雇用促進法の関係でしたが、こちらは花巻市内の方の採用ができました。こういったように、出来れば地元採用をしたいと思っても、出来ない事情ある場合があります。どこの企業もそうではないかと思えます。

主濱委員さん何かありませんか。

主濱芳江委員

特にありません。

菅原昭造会長

熊谷委員さん。

熊谷幸雄委員

就学前の教育のところですが、66ページ。子供達ばかりでなく、今の親。PTAに入る前の親が、就学前というから、保育園とかの親が、あまりにもで、モニターペアレンツにならないような何かしてもらわないと、と思いました。ここには文言では書いてあるんですけど、そういうことをもっと意識したことを強調して書いてもらいたいなど、親も学ばないと子供も育たないよみたいな形で、表してもらわないと。一緒に行事には参加するが言いたいことは言う、とか、学校へ行行って行事にも何にも参加しないで文句ばかり言うような親にならないようなことをしてもらえばと思います。そして、文言もそういうことを意識して書いてもらえたらなあと思います。

菅原昭造会長

はい。記録してください。
川村委員さん、いかがですか。

川村茂委員

はい。発言しましたので。

藤原眞紀男委員

“PLAN・DO・SEE”というのは、一般的な言い方ですか。普通は、“PLAN・DO・CHECK”ではないですか。

高橋地域振興課長

私達研修を受けた時は、“PLAN・DO・SEE”でした。

藤原眞紀男委員

「見直し」が入っているからだね。なるほど。

菅原昭造会長

これでいいわけだね。

熊谷幸雄委員

「評価・検証」で練り直しして、また計画へ。

藤原眞紀男委員

「評価・検証」して、何か改定を加えて、また“PLAN”に戻る。そこに“ACTION”がないと、というわけだな。

菅原昭造会長

後は、特にありませんでしょうか。

高橋地域振興課長

先程の宿題について、少しお話をしたいと思います。

地元の採用の率のことでお訪ねがございましたけれども、この実態把握がなかなか困難で、市では把握してはいないです。先程、鈴木委員さんからありました地元採用のことについては、市として市の幹部、商工会議所の会頭、それから、ハローワークの方が揃って各企業訪問して「地元採用お願いします。」というようなことをやっているようです。その実態的には、個々の会社毎には分かるかも知れませんが、現時点では数字を押さえていない、ということでした。

それから、25ページの製造品の出荷額ということで、800億程当初見込みより

減少している、これは、地場企業、誘致企業とも出荷額が落ちているという数字であり、誘致企業等の撤退等の影響があることも考えられるというところかと思っております。

それから、市内での売上げは本社かというお話であったかと思いますが、結果的には、法人市民税として市に税金が入ってくるんだそうですが、その会社によって全体を見て各営業所に配分される仕組みになっているんだそうです。そこで売上げた部分、花巻市での売上げが花巻市にそのまま入ってくる形ではない。他に、市内に営業所等があって市内の方が採用になっていけば、給料の支払いがあればその部分は、市民税として落ちているのかなというところでした。

菅原昭造会長

はい。ありがとうございます。大体想定したとおりかなというところでした。数字的なもので、これからの検証に必要な場合には、色々調べる機会がありますので。

それでは、大体意見も出尽くしたようでありますので、この際、12月24日に花巻市長から諮問のありました総合計画の見直し素案につきましては、原案に賛成するという形で答申することにご異議ございませんでしょうか。

「意義なし」の声多数。

菅原昭造会長

ありがとうございます。そのように、取り計らわせていただきますし、答申書につきましては、途中で申し上げましたとおり、会長に一任させていただきたいと思っております。抽象的な表現にしかないと思っておりますし、同時に個々の意見につきましては、参考意見としてこういうことがあった、ということで報告させていただきます。

3月頃議会が終わらないと正案は出てこないね。

高橋地域振興課長

担当課では、石鳥谷地域協議会始め、大迫、東和の地域協議会、花巻市自治推進委員会あるいは、総合計画審議会、パブリックコメント等、それらをまとめて全部整理してこれに組み込んでもう一度作り直しをすると、その作業は今月中にしたいという意向でした。

菅原昭造会長

必要な機会があれば、自主開催もしくは開催の機会で議会にかける前の段階の案としての正案をご覧ください、どの様になったかご確認いただきたいと思います。それでいいですね。

はい、ありがとうございます。それでは、3番目の協議事項については以上

にさせていただきます。

ここで、若干の休憩とさせていただきます。

< 暫時休憩 >

4. 説 明

菅原昭造会長

会議を再開します。それでは説明事項に入りますが、公共交通実施計画中期実施計画であります。説明をお願いいたします。

まちづくり部地域づくり課木村補佐

花巻市公共交通実施計画（中期実施計画）の素案について資料により説明

菅原昭造会長

ありがとうございました。この際、お聞きしたいことがありましたらどうぞ。石鳥谷の場合は、最初からこのことについては、特に問題はなかったんですね。何かお聞きしたいことがありましたらどうぞ。

熊谷幸雄委員

2 ページ。高次医療を支える公共交通の確保の、石鳥谷線の乗り入れはどうなんでしょう。

まちづくり部地域づくり課木村補佐

県交通に対して話はしているんですが、花巻駅からは、直接中部病院までのルートがありますのでということで、花巻駅まで来ていただければ中部病院まで行きます、という回答でした。石鳥谷駅までの交通の確保をしていただければ、花巻駅から中部病院までのルートがあるということで、石鳥谷線からの直接乗り入れは、お願いはしているんですが、いまのところ実現していない状況です。

熊谷幸雄委員

確か、石鳥谷線は上口から北上まで行っているんですが、一応私が、花巻市の地域公共交通会議の委員をやっている会議に行っていましたので、これが実現するのかなと思ってお聞きしました。石鳥谷の人達にとっては、迂回するよりは料金は高くなるけども乗換えしなくて済むので便利かなと思ったものですかからお話ししました。

菅原昭造会長

あとお聞きしたいことがありますか。はい、どうぞ。

柳原榮委員

乗合タクシーについて、これは、いわゆる公道、市道そこまで自分の自宅から出る100メートル、200メートルは離れた家が結構あるわけです。でも、今は自家用車を結構持っているから家まで車は入ると、どうしてここまで出てこなければならぬかという意見もあったような気がするんですが、今は、そういう意見はまだあるんですか。

まちづくり部地域づくり課木村補佐

おっしゃったような意見を前にもいただいて、東和でもありましたが、自分で頼んだタクシーではなくて乗合のタクシーですということ、自分の家まで来る間待っている他のお客さんもいるということでお話しております。どうしても自宅まで必要だということであれば、一般のタクシーをとということをお願いしております。あくまでも乗合ということに契約しておりますので、その辺ご理解いただきたいと思います。

菅原昭造会長

どこかで、線引きしなければなりませんものね。他、ございますか。

それでは、今のデマンドタクシーにつきましては、今のような問題はあるようですがこのような説明を行いまして、そのほか公共交通につきましては、熊谷委員さんが、公共交通の委員でもあるようですので、熊谷委員さんを通して意見を言う方法もあろうかと思えます。それでは、よろしいでしょうか。それでは、説明の部分を終わります。ご苦労様でした。

次は、その他であります。課長何かありますか。

5 そ の 他

高橋地域振興課長

報酬のお支払関係です。報酬7,300円でお知らせしておりますが、所得税を引かせていただきますのでお知らせいたします。源泉徴収票は来年ですがご確認をお願いいたします。以上です。

菅原昭造会長

みなさんの方から何かございませんか。何もなければこの辺で終わりたいと思います。ありがとうございました。

5. 閉 会 菅原久男副会長が閉会を宣言した。16:11